

令和 6 年度 必修科目シラバス

新潟県立佐渡総合高等学校

シラバス目次

教科	科目	ページ
国語	現代の国語	1
	言語文化	5
	文学国語（２年）	9
	文学国語（３年）	13
地理・歴史	歴史総合	18
	地理総合	21
公民	公共	24
数学	数学Ⅰ	27
	数学Ａ	29
	数学Ｂ	31
理科	科学と人間生活	33
	化学基礎	36
保健体育	体育（１年）	39
	体育（２年）	41
	体育（３年）	43
	保健（１年）	45
	保健（２年）	48
芸術	音楽Ⅰ	51
	美術Ⅰ	53
	書道Ⅰ	55
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	57
	コミュニケーション英語Ⅱ	59
家庭	家庭基礎	62
情報	社会と情報	65
総合的な 探究の時間	産業社会と人間	69

教科（科目）	国語（現代の国語）	単位数	3 単位	学年(系列)	1 年次（必修）
教科書	数研出版『現代の国語』				
副教材等	数研出版『現代の国語 準拠ワーク』、浜島書店『漢字ボックス』、 浜島書店『新訂版 最新国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。 ② 更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深

	的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う医力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
--	--	---

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う医力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
前期	「読む」「書く」	7時間 「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」	若松英輔 「書けない日々」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	問題を提起する	2時間 「B 書くこと」	山極寿一 「感情暴走 社会の由来」	・筆者の主張や論拠を踏まえ、要約等の作業に取り組む。	a b c	提出物の分析 発表の分析
	社会と文化	8時間 「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」	内田樹 「コミュニケーション能力とは何か」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		8時間 「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」	山崎正和 「水の東西」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	対比する	1時間 「B 書くこと」	武村政春 「デジタルメディア時代」の複製	・筆者の主張や論拠を踏まえ、要約等の作業に取り組む。	a b c	提出物の分析 発表の分析

賛否を述べる	2時間 「B書くこと」	柳 沢 桂 子 「命は誰のものなのか」	・筆者の主張や論拠を踏まえ、要約等の作業に取り組む。	a、 b、 c	提出物の分析 発表の分析
新しい視点	9時間 「A話すこと・聞くこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	梶井厚志 『わらしべ長者』の経済学	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	9時間 「A話すこと・聞くこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	阪本俊生 「ポスト・プライバシー」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
解釈を述べる	2時間 「B書くこと」	野矢茂樹 「事実なのか 考えなのか」	・筆者の主張や論拠を踏まえ、要約等の作業に取り組む。	a b c	提出物の分析 発表の分析

後 期	ことばの働き	8時間 「A話すこと・聞くこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	鈴木孝夫 「ものとことば」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	具体例を示す	2時間 「B書くこと」	福岡伸一 「動的平衡の回復」	・筆者の主張や論拠を踏まえ、要約等の作業に取り組む。	a、 b、 c	提出物の分析 発表の分析
	環境と科学	8時間 「A話すこと・聞くこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	山本茂行 「動物園というメディア」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	意見を述べる	2時間 「B書くこと」	森岡正博 「無痛化する社会のゆくえ」	・筆者の主張や論拠を踏まえ、要約等の作業に取り組む。	a b c	提出物の分析 発表の分析
	人間と時間	9時間 「A話すこと・聞くこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	内山節 「時間と空間の関係について」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		9時間 「A話すこと・聞くこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	田口茂 「時を編む人間」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	関連づける	2時間 「B書くこと」	樫本野衣 「絵を前に思いをめぐらす」	・筆者の主張や論拠を踏まえ、要約等の作業に取り組む。	a b c	提出物の分析

	こと」				発表の分析
認識の枠組み	9時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	鷲田清一 「他者を理解すること」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	8時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	原研哉 「白」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析

※ 領域ごとの授業時数合計

計 105 時間 (50 分授業)

領域ごとの授業時数	A 「話すこと・聞くこと」	B 「書くこと」	C 「読むこと」
合計 105 時間	38 時間	44 時間	23 時間

7 課題・提出物等

- ・ 各月に一度漢字テストがあります。テスト範囲は、月ごとに副教材の1単元になります。
- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。(指定図書の読書レポートなど)

8 担当者からの一言

「現代の国語」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。「現代の国語」及び「言語文化」で学ぶことは、高校3年間だけでなく、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に話したり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう。

(担当： 氏 名)

教科（科目）	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年（系列）	1年次（必修）
教科書	数研出版『言語文化』				
副教材等	数研出版『現代の国語 準拠ワーク』、浜島書店『漢字ボックス』、 浜島書店『新訂版 最新国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。 ② 更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに

	わりの中で伝え合う医力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	に、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
--	---	-------------------------------------

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う医力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
前	【古文】 言語文化と古文	1時間 「B 書くこと」 「C 読むこと」	言語文化と古文	・我が国の伝統的な言語文化に親しむ。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	説話	14時間 「B 書くこと」 「C 読むこと」	説話 『宇治拾遺物語』 「兄のそら寝」	・歴史的仮名遣いとその読み方を習得する。 ・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
			『宇治拾遺物語』 「絵仏師良秀」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	【漢文】 言語文化と漢文	1時間 「B 書くこと」	言語文化と漢文	・我が国の言語文化における漢字文化に親しむ。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析

期		「C 読む こと」				析
	故事	4時間 「B 書く こと」 「C 読む こと」	故事 漁夫之利	・訓読のきまりや基本的句法を理解する。 ・格言や故事成語の意味と由来を知る。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		5時間 「B 書く こと」 「C 読む こと」	故事 狐借虎威		a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	【近現代】 近代小説（一）	10時間 「A 話す こと・聞く こと」 「B 書く こと」 「C 読む こと」	芥川龍之介 『羅生門』	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析

	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
後 期	【古文】 歌物語	15時間 「B 書く こと」 「C 読む こと」	歌物語 『伊勢物語』 「芥川」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	物語		物語 『竹取物語』 「なよ竹のかぐや姫」		a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	随筆（二）		随筆（二） 『枕草子』 「春はあけぼの」		a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	【漢文】 史伝	5時間 「B 書く こと」 「C 読む こと」	史伝 管鮑之交	・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を解釈する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	漢詩	5時間	漢詩	・漢詩のきまりを理解して鑑賞に結びつける。	a b	ペーパーテストの分析

					c	提出物の分析 発表の分析
【近現代】 近代小説（二）	10時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	志賀直哉 『城の崎にて』	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析	

※ 領域ごとの授業時数合計

計 70 時間 (50 分授業)

領域ごとの授業時数	A 「話すこと・聞くこと」	B 「書くこと」	C 「読むこと」
合計 70 時間	25 時間	30 時間	15 時間

7 課題・提出物等

- ・ 毎月漢字テストがあります。テスト範囲は、別途指示します。
- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言語文化」は、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深めることに主眼を置き、言語文化を継承・発展させる態度を養おうとする科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。「現代の国語」及び「言語文化」で学ぶことは、高校3年間だけでなく、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に話したり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう。
(担当： 氏 名)

教科（科目）	国語（文学国語）	単位数	2単位	学年（系列）	2年次（必修）
教科書	第一学習社『高等学校 文学国語』				
副教材等	数研出版『現代の国語 準拠ワーク』、浜島書店『漢字ボックス』、 浜島書店『新訂版 最新国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから以下を重点とする。 ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指す。 ② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指し、更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深

	的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う能力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
--	--	---

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前	近代の小説(一)	12時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	中島敦 「山月記」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	12時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		8時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	梶井基次郎 「檸檬」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	8時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		5時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」	島崎藤村 「小諸なる古城のほとり」	・優れた表現の効果を確かめる。 ・感想を200字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	5時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析

期	近代の詩	「C 読むこと」				発表の分析
		5時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	宮沢賢治 「永訣の朝」	・優れた表現の効果を確かめる。 ・感想を200字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	5時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		8時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	角田光代 「旅する本」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	8時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		8時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	観世寿夫 「花のいざない」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	8時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	近代の小説 (二)	12時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	夏目漱石 「こころ」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	12時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		8時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	太宰治 「葉桜と魔笛」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	8時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	戦争と文学 (一)	8時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」	米原万里 「バグダッドの靴磨き」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	8時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析

		「C 読む こと」				発表の分析
--	--	--------------	--	--	--	-------

※ 領域ごとの授業時数合計

計 70 時間 (50 分授業)

領 域	A 「話すこと・聞くこと」	B 「書くこと」	C 「読むこと」
合計 70 時間	25 時間	15 時間	30 時間

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなる。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示する。(指定図書の読書レポートなど)

8 担当者からの一言

「文学国語」は、「学習目標」にあるとおり、我が国の言語文化に対する理解を目指し、さらにはそれを通じて豊かな生活を目指すものです。基本的な事柄を大切に積み上げていってください。(担当： 氏 名)

教科(科目)	国語(文学国語)	単位数	3単位	学年(系列)	3年次(必修)
教科書	第一学習社『高等学校 文学国語』				
副教材等	第一学習社『高等学校 文学国語 準拠ワーク』、浜島書店『漢字ボックス』、 浜島書店『新訂版 最新国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから以下を重点とする。

- ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指す。
- ② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指し、更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
	現代の小説 (二)	14時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	安部公房 「棒」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	14時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		14時間		・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。	14時間	ペーパーテストの分析

前 期		「A 話す こと・聞 くこと」 「B 書く こと」 「C 読む こと」	恩田陸 「骰子の 七の目」	・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを 書く。		提出物の分 析 発表の分析
	現代の詩	4時間 「A 話す こと・聞 くこと」 「B 書く こと」 「C 読む こと」	立原道造 「のちの おもひに」	・優れた表現の効果を確かめる。 ・感想を200字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを 書く。	4 時間	ペーパーテ ストの分析 提出物の分 析 発表の分析
		4時間 「A 話す こと・聞 くこと」 「B 書く こと」 「C 読む こと」	中桐雅夫 「足と心」	・優れた表現の効果を確かめる。 ・感想を200字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを 書く。	4 時間	ペーパーテ ストの分析 提出物の分 析 発表の分析
		4時間 「A 話す こと・聞 くこと」 「B 書く こと」 「C 読む こと」	長谷川龍生 「ちがう 人間ですよ」	・優れた表現の効果を確かめる。 ・感想を200字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを 書く。	4 時間	ペーパーテ ストの分析 提出物の分 析 発表の分析
		5時間 「A 話す こと・聞 くこと」 「B 書く こと」 「C 読む こと」	木内昇 「わからない から おもしろい」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論 理の展開について、ワークシートに記 入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを 書く。 ・説得力のある文章の特徴について考 え、発表する。	5 時間	ペーパーテ ストの分析 提出物の分 析 発表の分析
	随想（二） 〈創作〉	5時間 「A 話す こと・聞 くこと」	アーサー・ ビナード 「もしも、	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論 理の展開について、ワークシートに記 入する。 ・要旨を200字程度で要約する。	5 時間	ペーパーテ ストの分析 提出物の分

		「B 書くこと」 「C 読むこと」	詩があったら」	・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。		析 発表の分析
近代の小説 (三)	20時間	「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	森鷗外 「舞姫」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	20時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	15時間	「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	芥川龍之介 「枯野抄」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	15時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
戦争と文学 (二)	10時間	「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	大田昌秀 「血であがなったもの」	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・感想を400字程度でまとめる。 ・互いの感想を読み比べ、コメントを書く。	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	10時間	「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	原民喜 「夏の花」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析

※ 領域ごとの授業時数合計

計 105 時間 (50 分授業)

領 域	A 「話すこと・聞くこと」	B 「書くこと」	C 「読むこと」
合計 105 時間	20 時間	40 時間	45 時間

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなる。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示する。(指定図書の読書レポートなど)

8 担当者からの一言

「文学国語」は、「学習目標」にあるとおり、我が国の言語文化に対する理解を目指し、さらにはそれを通じて豊かな生活を目指すものです。基本的な事柄を大切に積み上げていってください。(担当： 氏 名)

教科(科目)	地理歴史(歴史総合)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年(総合学科)
使用教科書	第一学習社『高等学校歴史総合』				
副教材等	第一学習社『ダイアログ歴史総合』、第一学習社『歴史総合ノート』、				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代的な諸課題の形成にかかわる近現代の歴史を理解させ、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけるようにする。 (2) 近現代の歴史の意味や意義、現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野にいれて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができるようになる。 (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、日本の歴史に対する愛情、他国を尊重することの大切さについての自覚を養う。
--

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ① 基本的な歴史事象の理解させることを重視します。 ② 獲得した知識を基に、日本と世界の関連性や日本と世界が抱える課題について自分の言葉でまとめる能力を身につけさせることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・ 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	・ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	授業 時数	評価方法
4	歴史の扉	・ 歴史を学ぶ意味や意義について考える。 ・ 歴史的な見方・考え方について考える。	2	ワークシート ワークシート
5	近代化と私たち	・ 18 世紀のアジアの繁栄について理解する。 ・ 産業革命と市民革命について理解する。 ・ イギリスの繁栄と国民国家の角大について理解する。 ・ アジア諸国の変貌と日本の開国について理解する。 ・ 帝国主義の発展について理解する。 ・ 工業化が世界に与えた影響について、まとめて発表する。 ・ 定期考査。	25	ノート ノート ノート ノート ワークシート 発表の様子 定期考査の分析
7	国際秩序の変化や大衆化と私たち	・ 第一次世界大戦と大衆社会について理解する。 ・ 経済危機と第二次世界大戦について理解する。 ・ 定期考査。 ・ 主権者としての国民が民主主義の歴史とどのようにかわってきたのか、まとめて発表する。 ・ 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成について理解する。 ・ これまでの国際協力のあり方にはどのような成果と課題があったのだろうか。 ・ 定期考査。	25	ノート 夏休み課題への取り組み 定期考査の分析 ワークシート 発表の様子 ノート ワークシート 発表の様子 定期考査の分析
10	グローバル化と私たち	・ 冷戦と脱植民地化、第三世界の台頭について理解する。 ・ 国際秩序の変容と 21 世紀の世界について理解する。 ・ 定期考査。 ・ 現在の日本や世界の抱える課題を設定し、それについて 1 年間で学習したことを用いて考察し、解決の方法をまとめて、発表し、議論する。	18	ノート 冬休み課題の取り組み ノート 定期考査の分析 ワークシート 発表・議論の様子

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに調べ学習と発表する活動があり、内容をまとめたワークシートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「歴史総合」は、日本の世界の歴史を関連づけて学ぶ科目です。「歴史総合」を学ぶことで、現在日本や世界でおきている問題や、日本や世界が抱える課題の原因や内容について理解することができます。普段から新聞やニュースに触れておくと授業内容の理解も深まるので、新聞やニュースに触れる時間を増やしましょう。

教科(科目)	地理総合(地理歴史)	単位数	2単位	学年(コース)	2年次(総合学科)
使用教科書	帝国書院『新地理総合』『新詳高等地図』				
副教材等	東京法令出版社『フォトグラフィア地理図説』、帝国書院『新地理総合ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

- ① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
- ② 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 基本的な社会事象を理解することを重視します。
- ② 獲得した知識を基に、よりよく生きることによりよい社会形成のために必要なことを考察し、自分の言葉でまとめる能力の育成を目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	・ 地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1部 第1章 1 地球上の位置と時差	・緯度・経度の仕組みや生活に与える影響を理解することができる。	2	ノート
5	2 地図の役割と種類 第1部 第2章 1 現代世界の国家と領域	・地図や地理情報システムの仕組みを理解し、技能を身に付けることができる。 ・日本の位置・領域の特徴や、領土をめぐる問題について理解する。	5 1	ノート ワークシート ノート
6	2 グローバル化する世界	・グローバル化に伴い、世界の国々を結びつける要素の変化について理解する。 定期考査	2 1	ノート 定期考査の分析
7	第2部 第1章 1 世界の地形と人々の生活	・地形が人々の生活に与える影響を考え発表する。 ・	8	ワークシート 発表の様子
	2 世界の気候と人々の生活	・気候が人々の生活に与える影響を考え発表する。	7	ワークシート 発表の様子
9	自然1 オセアニア	・オセアニアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解する。	2	夏休み課題の取組み ノート
	自然2 東南アジア	・東南アジアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解する。 ・言語と宗教が人々の生活に与える影響を理解する。 ・定期考査	2 2 1	ノート ワークシート ノート 定期考査の分析
10	3 世界の言語・宗教と人々の生活文化 宗教1 イスラーム	・イスラームが人々の生活に与える影響や、経済発展による生活の変化を理解する。	2	ノート

11	宗教2 ヒンドゥー教	・ヒンドゥー教が人々の生活に与える影響や、経済発展による生活の変化を理解する。	2	ノート ワークシート
	4 歴史的背景と人々の生活	・冷戦時代を事例にして、歴史的背景が人々の生活に与える影響を理解する。	1	ノート
	歴史1 ラテンアメリカ	・ラテンアメリカの歴史的背景を学び、産業や文化について理解する。	2	ノート
	歴史2 サハラ以南のアフリカ	・サハラ以南のアフリカの歴史的背景を学び、産業や文化について理解する	1	ノート
	5 世界の産業と人々の生活	・農業や工業などの産業、およびそのグローバル化が人々の生活に与える影響を考え発表する。	2	ノート
	産業1 アメリカ合衆国	・アメリカ合衆国の産業力が育まれた社会的背景を学び、人々の生活に与える影響を理解する。	2	ノート
	第2章			
	1 複雑に絡み合う地球的課題	・地球的課題の背景にある経済格差を学び、その解決に向けた取り組みを理解する	3	ノート ワークシート
	2 地球環境問題	・地球環境問題の種類や背景を理解し、解決に向けての取り組みを理解する。	4	ノート ワークシート
	定期考査			
	1 3 人口問題	・人口分布と人口増加の傾向を学び、発展途上国と先進国の人口問題を理解し発表する。	1	定期考査の分析
12	発表の様子			
	3 人口問題	・人口分布と人口増加の傾向を学び、発展途上国と先進国の人口問題を理解し発表する。	4	ノート ワークシート
	第3部 第1章			
	1 日本の自然環境	・日本の地形や気候の特徴を学び、形成要因や地域差を理解する。	3	ノート
	2 地震・津波と防災	・地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について理解する。	2	ノート
	定期考査			
	3 火山災害と防災	・火山の分布、恵み、災害の特徴を学び、共生する自治体の取り組みを理解する。	1	定期考査の分析
	4 気象災害と防災	・地域で異なる気象災害を学び、台風による水害や大雪による雪害の影響と取り組みを理解する。	2	ノート ワークシート
	5 自然災害への備え	・災害の被害を軽減するための取り組みを学び、被災地における自助・共助・公助を理解する	1	ノート

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに調べ学習と発表する活動があり、内容をまとめたワークシートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

地理は、身近な地域の問題から世界規模の環境・エネルギー問題まで、現代社会が抱えるさまざまな問題がテーマです。世界の風景、文化の異なる人々の暮らしなど、TV やインターネットで見かける機会も多いと思います。また、国内外を問わず行ってみたいと思う場所もあると思います。地理は、実際の生活の中でも役に立つ常識も多く含まれています。さらに好奇心を広げ、世界的な視野を広げていきましょう。

教科(科目)	公民(公共)	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年(総合学科)
使用教科書	第一学習社『高等学校 公共』				
副教材等	東京法令出版『テーマ別資料 公共』、第一学習社『公共ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題の捉え方を考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとする。
- (2) 現実世界の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力しあうことの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 基本的な社会事象を理解することを重視します。
- ② 獲得した知識を基に、よりよく生きることよりよい社会形成のために必要なことを考察し、自分の言葉でまとめる能力の育成を目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・ 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	・ 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	授業 時数	評価方法
4	公共の扉	・他者との関わりや伝統、文化との関わりから、主体的に社会を形成するにはどのような方法があるかについて考える。 ・公共的な空間の基本原則について理解する。 ・法や規範の意義と役割について理解する。 ・契約と消費者の権利・責任について理解する。 ・成年年齢が18歳となったことのメリットとデメリットについてまとめ、発表する。 ・司法参加の意義について理解する。 ・定期考査 ・政治参加と公正な世論の形成について理解する。 ・若者の政治参加を進めるための方法について、まとめ、発表する。	2	ワークシート
5	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	・国際社会と国家主権について理解する。 ・日本の安全保障と防衛について理解する。 ・国際社会の変化と日本の役割について理解する。 ・国際平和実現のために解決しなければならない課題は何かを考え、それを解決するための方法をまとめる。 ・定期考査。		ノート ノート ノート ワークシート 発表の様子
6				ノート 定期考査の分析 ノート ワークシート 発表の様子
7				ノート
9				ノート ワークシート 課題への取り組みの様子 定期考査の分析

10		・雇用と労働問題について理解する。		ノート
		・社会の変化と職業観。		ノート
11		・労働者すべてが働きやすい労働環境を実現するにはどのようにするべきか考え、まとめる。		ワークシート 課題への取り組みの様子
		・市場経済の機能と限界について理解する。		ノート
		・金融のはたらきについて理解する。		ノート
12		・経済のグローバル化について理解する。		ノート
		・貧困と格差の問題について調べ、解決方法をまとめる。		ワークシート 課題への取り組みの様子
		・定期考査		ノート
1	持続可能な社会づくりの主体となる私	・地球環境問題について理解する。		ノート
		・資源・エネルギー問題について理解する。		ノート
		・生命倫理について理解する。		ノート
		・情報社会について理解する。		ノート
		・国際社会の課題について理解する。		ノート
		・定期考査		定期考査の分析
2		・「地球環境問題」、「資源・エネルギー問題」、「生命倫理」、「情報社会」、「国際社会の課題」のテーマから1つを選び、課題を設定し、まとめ、発表する。		活動への取り組みの様子
3				発表の様子

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに調べ学習と発表する活動があり、内容をまとめたワークシートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「公共」は、よりよく生きるための知識や社会の仕組みについて学ぶ科目です。「公共」を学ぶことで、政治や経済などの社会の仕組みや、日本や世界が抱える課題について理解することができます。普段から新聞やニュースに触れておくと授業内容の理解も深まるので、新聞やニュースに触れる時間を増やしましょう。

教科(科目)	数学(数学Ⅰ)	単位数	3単位	学年	1学年
使用教科書	新編数学Ⅰ（第一学習社）				
副教材等	新課程版スタディ数学Ⅰ（第一学習社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフなどに相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

・数と式、二次関数、図形と計量、データの分析の基本的な考え方を理解し、基礎的な知識と技能を活用できるようにする。 ・数学的な見方や考え方のよさを理解し、活用できるようにする。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフなどに相互に関連付けて考察する力を身に付けている。 ・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

	評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動（指導内容）	時間	評価	評価方法
前期	数と式	1 節 式の展開 ①整式 ②整式の加法・減法 ③整式の乗法 ④乗法公式の利用 ⑤因数分解 ⑥式の展開・因数分解の工夫	10	abc	・定期考査 ・実力テスト ・授業への取り組み ・ノート、課題提出
		2 節 実数 ①実数 ②根号を含む式の計算	10	abc	
		3 節 1 次不等式 ①不等式 ②不等式の性質 ③1 次不等式の解法 ④連立不等式の解法 課題学習（教科書 p. 41）	10	abc	
	2 次関数	1 節 2 次関数とそのグラフ ①関数 ②～⑥2 次関数のグラフ ⑦2 次関数の最大最小 ⑧2 次関数の決定 課題学習（p. 66～67）	12	abc	
		2 節 2 次方程式・2 次不等式 ①2 次方程式の解 ②2 次方程式の実数解の個数 ③2 次関数のグラフとx軸共有点 ④2 次不等式 課題学習（p. 82）	13	abc	
後期	図形と計量	1 節 ①三角比 ②三角比の利用 ③鋭角の三角比の相互関係 ④三角比の拡張	15	abc	・定期考査 ・実力テスト ・授業への取り組み ・ノート、課題提出
		2 節 ①正弦定理 ②余弦定理 ③三角形の面積 ④正弦定理と余弦定理の利用 課題学習（p. 111）	10	abc	
	集合と論理	1 節 ①集合 ②命題 ③証明法 課題学習（p. 127）	12	abc	
	データの分析	1 節 ①データの整理 ②代表値 ③データの散らばりと四分位数 ④外れ値 ⑤データの散らばりと標準偏差 ⑥データの相関 ⑦仮説検定の考え方 課題学習（p. 146）	13	abc	

計 105 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

・授業で習った部分のワークを定期的に宿題として出します。提出等は授業担当の指示に従ってください。 ・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。
--

8 担当者からの一言

高校に入学して、新たな数学のスタートを切ることになります。中学数学の復習もしながら、一緒に取り組んでいきましょう。課題提出の締め切りは必ず守ってください。分からないことがあったらそのままにしないで、担当の先生に遠慮せずに質問してください。
--

教科(科目)	数学(数学A)	単位数	2単位	学年	2学年
使用教科書	新編数学A（第一学習社）				
副教材等	新課程版スタディ数学A（第一学習社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動についての認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

・場合の数、確率、図形の性質の基本的な考え方を理解し、基礎的な知識と技能を活用できるようにする。 ・数学的な見方や考え方のよさを理解し、活用できるようにする。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	図形の性質、場合の数と確率及び数学と人間の活動の分野において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象に数学の構造を見い出そうとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

5 評価方法

	評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動（指導内容）	時間	評価	評価方法
前期	場合の数	1 節 数え上げの原則 ①集合 ②集合の要素の個数 ③数え上げの原則	5	abc	・定期考査 ・実力テスト ・授業への取り組み ・出欠席 ・ノート、課題提出
		2 節 順列・組合せ ①順列 ②重複順列 ③円順列 ④組合せ ⑤組合せの利用	15	abc	
	確率	1 節 確率の基本性質といろいろな確率 ①事象と確率 ②確率の基本的な性質 ③余事象の確率 ④独立な試行の確率 ⑤反復試行の確率 ⑥条件つき確率 ⑦期待値 課題学習 (p. 53)	15	abc	
後期	図形の性質	1 節 三角形の性質 ①三角形と比 ②三角形の外心 ③三角形の内心 ④三角形の重心	8	abc	・定期考査 ・実力テスト ・授業への取り組み ・出欠席 ・ノート、課題提出
		2 節 円の性質 ①円周角の定理 ②円に内接する四角形 ③円と接線 ④円の接戦と弦の作る角 ⑤方べきの定理 ⑥2つの円 課題学習 (p. 84)	10	abc	
		3 節 空間図形 ①空間における直線・平面の位置関係 課題学習 (教科書 p. 91)	5	abc	
	数学と人間の活動	1 節 数学と人間の活動 ①倍数・約数 ②余りによる自然数の分類 ③ユークリッドの互除法 ④2進法 ⑤昔の測量 ⑥最短の経路 ⑦点の位置の表し方	12	abc	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・授業で習った部分のワークを定期的に宿題として出します。提出等は授業担当の指示に従ってください。 ・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。
--

8 担当者からの一言

・「数学B」を学習するときに基礎となる内容です。
--

教科(科目)	数学(数学B)	単位数	2単位	学年	3学年
使用教科書	新編数学B（第一学習社）				
副教材等	新課程版スタディ数学B（第一学習社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数値化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

既習内容を確認するとともに、数列・統計的な推測の考えについて理解させ、反復練習などで知識の習得と技能の習熟を図り、発展問題を通して事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数列、統計的な推測及び数学と社会生活の分野において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象に数学の構造を見い出そうとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

5 評価方法

	評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動（指導内容）	時間	評価	評価方法
前期	数列	1 節 等差数列と等比数列 ①数列と一般項 ②等差数列 ③等差数列の和 ④等比数列 ⑤等比数列の和	13	abc	・定期考査 ・実力テスト ・授業への取り組み ・出欠席 ・ノート、課題提出
		2 節 いろいろな数列 ①自然数の2乗の和 ②和の記号 Σ とその性質 ③階差数列 ④数列の和と一般項 課題学習 (p. 27)	12	abc	
		3 節 漸化式と数学的帰納法 ①漸化式 ②数学的帰納法 課題学習 (p. 36)	10	abc	
後期	統計的な推測	1 節 確率分布 ①確率変数と確率分布 ②確率変数の平均 ③確率変数の分散と標準偏差 ④二項分布 ⑤連続型確率変数 ⑥正規分布 ⑦二項分布の正規分布による近似	15	abc	・定期考査 ・実力テスト ・授業への取り組み ・出欠席 ・ノート、課題提出
		2 節 統計処理 ①標本調査と母集団分布 ②標本平均の確率分布 ③母平均の推定 ④母比率の推定 ⑤仮説検定の方法 課題学習 (p. 80)	10	abc	
	数学と社会生活	1 節 数学と社会生活 ①散布図からの推測 ②受験種目の選択 ③商品の仕入れ数 ④直線距離と道路距離 ⑤見えやすさの数値による判定	10	abc	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・授業で習った部分のワークを定期的に宿題として出します。提出等は授業担当の指示に従ってください。 ・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。
--

8 担当者からの一言

・「数学Ⅰ」「数学A」で学習した内容を利用します。

教科 (科目)	理科 (科学と人間生活)	単位数	2単位	学年(系列)	1 学年 (必修)
使用教科書	科学と人間生活 (数研出版)				
副教材等	科学と人間生活サポートノート (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

・自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な 事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、 科学に対する興味・関心を高める。

3 指導の重点

- ①科学的見方の基本的な概念の形成を図る。 ②科学的に探求する方法の習得を目指す。
- ③日常生活で活用されている科学的法則性の理解に資する時事教材を用いて科学への関心・理解を深める。
- ④上記により科学的な思考力・判断力・表現力を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている	自然の事象から問題を見出し、見通しをもって観察・実験などをおこない、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している	自然事象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	序章 科学技術の発展	「科学技術の発展」2時間	①生きる、②照らす、③知らせる、④移動する、 ⑤計算する、⑥耕す、⑦保存する、⑧治す、⑨備える 第1章 材料とその再利用 ①金属と人間生活、②身の回りの金属と精錬、 ③金属のさびとその防止、④プラスチックとその性質、 ⑤プラスチックの成り立ち、⑥さまざまなプラスチック ⑦資源の再利用	ac	活動評価
	第1編 物質の科学	「物質の科学」15時間	第2章 衣料と食品 ①衣料と繊維、②天然繊維、③化学繊維(1) ④化学繊維(2)、⑤食品と栄養素、⑥炭水化物、 ⑦蛋白質、⑧脂質とその他の栄養素	ac	活動評価 発問評価 レポート提出 発問評価
5		「生命の科学」15時間 考査を含む	第1章 ヒトの生命現象 ①遺伝情報とDNA、②生命活動を支える蛋白質、 ③血糖濃度とホルモン、④血糖濃度の調節と健康、 ⑤免疫とからだの防御、⑥免疫と健康 ⑦眼の構造とはたらき、⑧光の情報と生命活動 第2章 微生物とその利用 ①身のまわりの微生物、②微生物とその発見の歴史、 ③発酵食品への微生物の利用、④乳酸発酵とアルコール発酵、 ⑤医療品への微生物の利用、⑥生態系における微生物、 ⑦環境の浄化と微生物 ○考査と振り返り	ac	発問評価 定期考査
6	第2編 生命の科学 定期考査			ab	活動評価
7				bc	定期考査 レポート提出
9	定期考査			ab	
10	第3編 物質の科学	「光や熱の科学」14時間	第1章 光の性質とその利用 ①光の色、②光の直進と反射、③光の屈折と全反射、 ④光の分散と散乱、⑤光の回折と干渉、⑥電磁波、 ⑦電磁波の利用	ac	活動評価 発問評価

11			第2章 熱の性質とその利用 ①温度と熱運動、②熱容量・比熱、③熱の伝わり方 ④仕事や電流と熱の発生、⑤エネルギーの移り変わり ⑥熱エネルギーの利用、⑦エネルギー資源の利用	ac	発問評価
12	第4編 宇宙や地球 の科学 定期考査	「宇宙と地球の 科学」14時間 考査を含む	第1章 太陽と地球 ①日本の四季と気象災害(1)、②日本の四季と気象災害 (2)、③大気の大循環、④地球を出入りするエネルギー ⑤太陽の構造と太陽放射、⑥天体の運動、⑦天体の運動 と海洋	ab	定期考査
1			第2章 自然景観と自然災害 ①日本列島とプレート、②地質のしくみと地震活動 ③地震による災害、④マグマがつくる火山と景観 ⑤火山がもたらす恵みと災害、⑥水のはたらきと自然景 観、⑦土砂災害と洪水	bc	レポート提出 発問評価
2			○考査と振り返り	ab	定期考査
3			総合的振り返り	abc	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・適宜、副教材等を利用した課題・提出物を課する。

8 担当者からの一言

1 年次の『科学と人間生活』では、科学に関することを幅広く学びます。次年度以降は、
化学的分野は2 年次で『化学基礎』を全員が学び、3 年次には『化学』を選択して学習することができます。
物理学的分野は2 年次で『物理基礎』、3 年次で『物理』を選択して学習することができます。
生物学的分野は2 年次で『生物基礎』、3 年次で『生物』を選択して学習することができます。

授業に集中して取り組みましょう。板書を写すだけが授業ではありません。深く理解できるよう努力しましょう。
提出物は、必ず期限までに提出してください。ノート、授業プリント、実験レポートなどは大切に保管しましょう。
まとめ学習も行います。人にわかりやすく伝えるためには、深い理解と的確な表現が必要です。ここで培った力は、
社会で生きる力となります。自分なりの工夫をしてまとめてみましょう。

教科（科目）	理科（化学基礎）	単位数	2 単位	学年(系列)	2 学年（必履修）
教科書	新編化学基礎（東京書籍）				
副教材	ニューアチーブ化学基礎（東京書籍）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必履修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験を行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や 原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 指導の重点

- ①化学の基本的な概念の形成を図る。
- ②化学的に探求する方法の習得を目指す。
- ③日常生活で活用されている化学物質の理解に資する時事教材を用いて物質とその変化への関心・理解を深める。
- ④上記により科学的な思考力・判断力・表現力を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、化学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている	物質とその変化から問題を見出し、見通しをもって観察・実験などをおこない、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、化学的に探究している	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、化学的に探求しようとしている

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 指導計画

学期	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法	
4	序章 化学と人間生活	「物質とその構成要素」 18時間	序章 化学と人間生活 ①人間生活の中の化学 ②金属 ③プラスチック ④化学とその役割 ⑤化学の拓く未来 第1節 物質とその構成要素 ①物質の分離(1) ②物質の分離(2)	ac	授業態度 発問評価 レポート提出 小テスト	
5	第I章 物質の構成		③物質を構成する元素 ④元素の確認 ⑤物質の三態 ⑥原子のなりたち ⑦同位体とその利用⑧原子の電子配置 ⑨元素の周期律と周期表 ふりかえりと考査	bc		前期 35時間 (50分授業)
6				ab		
7		「化学結合」 17時間	第2節 化学結合 ①イオン(1) ②イオン(2) ③イオン結合④イオンからできる物質 ⑤共有結合(1) ⑥共有結合(2)	ac		
9			⑦分子の極性⑧分子からできる物質(1) ⑨分子からできる物質(2) ⑩共有結合の結晶 ⑪金属結合と金属結晶 ふりかえりと考査	ab		
10		「物質と化学反応」 15時間	第1節 物質と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量 ③物質と粒子の数 ④物質と質量 ⑤物質と気体の体積⑥溶解と濃度	bc	授業態度 発問評価 ノート提出 実験報告書 小テスト	
11			⑦化学反応式(1) ⑧化学反応式(2) ⑨化学反応の量的関係(1) ⑩化学反応の量的関係(2)	ab		

12		「酸・塩基とその反応」 5時間	第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱と分類 ③水素イオン濃度と pH ④pH の測定 ふりかえりと考査	ac	後期 35 時間 (50 分授業)
1	第3編 生物の 多様性と 生態系	「植生の多様性と分布」 15時間	⑤中和と塩 ⑥中和の量的関係 ⑦中和滴定と pH の変化	bc	
2			第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化数 ③酸化剤と還元剤	bc	
3			④金属のイオン化傾向 ⑤酸化還元反応の利用 ⑥電池 ⑦電気分解	ac	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・適宜副教材等を利用した課題・提出物を課する。

8 担当者からの一言

1 年次に学んだ『科学と人間生活』の化学分野に加え、さらなる科学的な探究方法等としての化学的手法を理解し、『化学基礎』を学ぶことにより、科学的態度の深化を支援します。

授業に集中して取り組みましょう。板書を写すだけが授業ではありません。深く理解できるよう努力しましょう。

提出物は、必ず期限までに提出してください。ノート、授業プリント、実験レポートなどは大切に保管しましょう。

まとめ学習も行います。人にわかりやすく伝えるためには、深い理解と的確な表現が必要です。ここで培った力は、社会で生きる力となります。自分なりの工夫をしてまとめてみましょう。

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	大修館 『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館 『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身に付ける。

3 指導の重点

- ・各運動の基本的技能を身に付ける。
- ・年間を通じての基礎トレーニングにより、体力の向上を図る。
- ・規律規範を守る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲をもち、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ①技能テスト、対戦・計測記録の成績 ②筆記テストの成績 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①学習活動への取り組みの観察 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①授業態度、学習活動への参加状況 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。
	内容のまとめり毎に各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめり毎の評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
前期	オリエンテーション 体づくり運動	体づくり運動 (7)	各種教 具・教 材	・体育の心得や年間の内容を理解する ・色々な動きを通して、体力を高めたり体をほぐしたりする	なし	なし
	陸上競技	競走(12)		・短距離走 ・長距離走	a b c	① ①② ①②
	器械運動(男子) 球技(女子)	マット運動・跳 び箱運動(16) ネット型・バレー ボール		・回転系、巧技系の基本的技能の習得 ・切り返し系、回転系の基本的技能の習得 ・パス、サーブ、レシーブ、スパイクなどの基本的技能の習得	a b c	① ①② ①②
	体づくり運動	体づくり運動 (3)		・色々な動きを通して、体力を高めたり体をほぐしたりする	なし	なし
	球技(男子) 器械運動(女子)	ネット型・バレー ボール(16) マット運動・跳 び箱運動		・パス、サーブ、レシーブ、スパイクなどの基本的技能の習得 ・回転系、巧技系の基本的技能の習得 ・切り返し系、回転系の基本的技能の習得	a b c	① ①② ①②
	陸上競技	競走(12)		・長距離走	a b c	① ①② ①②
後期	球技(男子) 球技(女子)	ゴール型・バスケット ボール(16) ネット型・バド ミントン	各種教 具・教 材	・パス、ドリブル、シュートなどの基本的技能の習得 ・サーブ、ハイクリア、スマッシュなどの基本的技能の習得	a b c	① ①② ①②
	体育理論	体育理論 (7)		・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	a b c	② ①② ①②
	球技(男子) 球技(女子)	ネット型・バド ミントン(16) ゴール型・バスケット ボール		・サーブ、ハイクリア、スマッシュなどの基本的技能の習得 ・パス、ドリブル、シュートなどの基本的技能の習得	a b c	① ①② ①②

計105時間(50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	「体づくり運動」	「器械運動」	「陸上競技」	「球技」	「体育理論」
	10時間	16時間	24時間	48時間	7時間

6 課題・提出物等

・適宜授業の振り返りシートやワークシートを記入し、提出することとなります。

7 担当者からの一言

「体育」は健康で活力ある生活や人生を送るうえで欠かせない心と体をつくる科目です。運動の得意・不得意や好き・嫌いに関わらず、多様な種目に触れてその特性や魅力を感じながら、生涯をより健康的に過ごすための基礎を3年間で築いてほしいと思います。(担当：金澤)

令和6年度シラバス（体育）

学番80 新潟県立佐渡総合高等学校

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	大修館 『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館 『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身に付ける。

3 指導の重点

- ・各運動の基本的技能を身に付ける。
- ・年間を通じての基礎トレーニングにより、体力の向上を図る。
- ・規律規範を守る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲をもち、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ①技能テスト、対戦・計測記録の成績 ②筆記テストの成績 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①学習活動への取り組みの観察 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①授業態度、学習活動への参加状況 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。
	内容のまとめり毎に各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめり毎の評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
前期	オリエンテーション 体づくり運動	体づくり運動 (5)	各種教 具・教 材	・体育の心得や年間の内容を理解する ・色々な動きを通して、体力を高めたり体をほぐしたりする	なし	なし
	陸上競技	競走(10)		・短距離走 ・長距離走	a b c	① ①② ①②
	球技(男子) 球技(女子)	ネット型・バレーボール(9) ネット型・卓球		・パス、サーブ、レシーブ、スパイクなどの基本的技能をゲームの中で活かすことのできる能力の習得。 ・色々な打ち方、サーブ、スマッシュなどの基本的技能をゲームの中で活かすことのできる能力の習得。	a b c	① ①② ①②
	体づくり運動	体づくり運動 (3)		・色々な動きを通して、体力を高めたり体をほぐしたりする	なし	なし
	球技(男子) 球技(女子)	ネット型・卓球 (9) ネット型・バレーボール		・色々な打ち方、サーブ、スマッシュなどの基本的技能をゲームの中で活かすことのできる能力の習得。 ・パス、サーブ、レシーブ、スパイクなどの基本的技能をゲームの中で活かすことのできる能力の習得。	a b c	① ①② ①②
	陸上競技	競走(9)		・長距離走	a b c	① ①② ①②
後期	球技(男子) 球技(女子)	ゴール型・バスケットボール(9) ネット型・バドミントン	各種教 具・教 材	・パス、ドリブル、シュートなどの基本的技能をゲームの中で活かすことのできる能力の習得。 ・サーブ、ハイクリア、スマッシュなどの基本的技能をゲームの中で活かすことのできる能力の習得。	a b c	① ①② ①②
	体育理論	体育理論 (7)		・運動やスポーツの効果的な学習の仕方	a b c	② ①② ①②
	球技(男子) 球技(女子)	ネット型・バドミントン(9) ゴール型・バスケットボール		・サーブ、ハイクリア、スマッシュなどの基本的技能をゲームの中で活かすことのできる能力の習得。 ・パス、ドリブル、シュートなどの基本的技能をゲームの中で活かすことのできる能力の習得。	a b c	① ①② ①②

計70時間(50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	「体づくり運動」	「陸上競技」	「球技」	「体育理論」
	8時間	19時間	36時間	7時間

7 課題・提出物等

・適宜授業の振り返りシートやワークシートを記入し、提出することとなります。

8 担当者からの一言

「体育」は健康で活力ある生活や人生を送るうえで欠かせない心と体をつくる科目です。運動の得意・不得意や好き・嫌いに関わらず、多様な種目に触れてその特性や魅力を感じながら、生涯をより健康的に過ごすための基礎を3年間で築いてほしいと思います。(担当：金澤)

令和6年度シラバス（体育）

学番80 新潟県立佐渡総合高等学校

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	大修館 『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館 『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身に付ける。

3 指導の重点

- ・各運動の基本的技能を身に付ける。
- ・年間を通じての基礎トレーニングにより、体力の向上を図る。
- ・規律規範を守る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲をもち、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ①技能テスト、対戦・計測記録の成績 ②筆記テストの成績 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①学習活動への取り組みの観察 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①授業態度、学習活動への参加状況 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。
	内容のまとめり毎に各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめり毎の評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
前期	オリエンテーション 体づくり運動	体づくり運動 (5)	各種教 具・教 材	・体育の心得や年間の内容を理解する ・色々な動きを通して、体力を高めたり体をほぐしたりする	なし	なし
	陸上競技	競走(10)		・短距離走 ・長距離走	a b c	① ①② ①②
	球技(男子) 球技(女子)	ネット型・バレーボール(9) ゴール型・バスケットボール		・1～2学年時に習得した個人的技能・集団的技能を活用して、作戦を立てゲームができるようにする	a b c	① ①② ①②
	体づくり運動	体づくり運動 (3)		・色々な動きを通して、体力を高めたり体をほぐしたりする	なし	なし
	球技(男子) 球技(女子)	ゴール型・バスケットボール(9) ネット型・バレーボール		・1～2学年時に習得した個人的技能・集団的技能を活用して、作戦を立てゲームができるようにする	a b c	① ①② ①②
	陸上競技	競走(9)	各種教 具・教 材	・長距離走	a b c	① ①② ①②
後期	選択Ⅰ(球技)	バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球(9)		・1～2学年時に習得した個人的技能・集団的技能を活用して、作戦を立てゲームができるようにする	a b c	① ①② ①②
	選択Ⅱ(球技)	バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球(9)		・1～2学年時に習得した個人的技能・集団的技能を活用して、作戦を立てゲームができるようにする	a b c	① ①② ①②
	体育理論	体育理論 (7)		・運動やスポーツの効果的な学習の仕方	a b c	② ①② ①②

計70時間(50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	「体づくり運動」	「陸上競技」	「球技」	「体育理論」
	8時間	19時間	36時間	7時間

7 課題・提出物等

・適宜授業の振り返りシートやワークシートを記入し、提出することとなります。

8 担当者からの一言

「体育」は健康で活力ある生活や人生を送るうえで欠かせない心と体をつくる科目です。運動の得意・不得意や好き・嫌いに関わらず、多様な種目に触れてその特性や魅力を感じながら、生涯をより健康的に過ごすための基礎を3年間で築いてほしいと思います。(担当：金澤)

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	大修館 『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館 『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身に付ける。

3 指導の重点

- ・各単元の健康課題についての理解を深める。
- ・現代社会と健康、安全な社会生活と健康について自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を行う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ①筆記、実技テストの成績 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①学習活動への取り組みの観察 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①授業態度、学習活動への参加状況 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。
	内容のまとめり毎に各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめり毎の評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	時数	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
前期	健康の考え方と成り立ち	2	健康についての多様な考え方、健康の成り立ちとそれにかかわる要因について理解する。	a b c	① ①② ①②
	私たちの健康のすがた	1	わが国における健康水準の向上、健康問題の変化について理解する。		
	生活習慣病の予防と回復	2	生活習慣病の種類や要因、生活習慣病の予防から回復について理解する。		
	がんの原因と予防	1	がんの種類や原因、がんの予防から回復について理解する。		
	がんの治療と回復	1	がんの主な治療法や緩和ケア、がんとともに生きる社会づくりについて理解する。		
	運動と健康	2	健康からみた運動の意義、健康により運動のしかたについて理解する。		
	食事と健康	2	健康的な食生活の意義、健康により食事のとり方について理解する。		
	休養・睡眠と健康	1	健康からみた休養・睡眠の意義、健康により休養・睡眠のとり方について理解する。		
	喫煙と健康	2	喫煙の影響、喫煙開始・継続要因、個人的・社会的な喫煙対策について理解する。		
	飲酒と健康	2	飲酒の健康影響と社会問題、飲酒の開始要因、個人と社会の飲酒対策について理解する。		
	薬物乱用と健康	2	薬物乱用の危険性や社会影響、薬物乱用の開始要因と対策について理解する。		
後期	精神疾患の特徴	1	精神疾患の要因と種類、精神保健の今日的課題について理解する。	a b c	① ①② ①②
	精神疾患の予防	1	日常生活における精神疾患の予防、精神疾患の早期発見・早期治療について理解する。		
	精神疾患からの回復	1	専門家による精神疾患への支援と治療、社会環境の整備について理解する。		
	現代の感染症	1	感染症の潜伏期間や感染力、さまざまな感染症が流行する要因について理解する。		
	感染症の予防	1	感染症予防の3原則、感染症予防のための個人と社会の対策について理解する。		
	性感染症・エイズとその予防	1	性感染症・エイズとは何か、予防するための個人と社会の対策について理解する。		
	健康に関する意志決定・行動選択	1	意志決定・行動選択とそれに影響を与える要因、適切な意志決定・行動選択を実現する工夫について理解する。		
	健康に関する環境づくり	1	健康を保持増進するための環境、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりについて理解する。		
	事故の現状と発生要因	1	事故とその被害の実態、事故の発生に関連する要因について理解する。		
	安全な社会の形成	1	自他の安全を確保する行動、安全を確保する社会の取り組みについて理解する。		
	交通における安全	1	交通事故防止のための取り組み、交通事故と運転者の責任について理解する。		

後 期	応急手当の意義とその基本	2	応急手当の意義やその手順について理解する。		
	日常的な応急手当	2	日常的なけがや熱中症の応急手当の方法、手順について理解し、実際に日常的なけがや熱中症の応急手当ができるようにする。	a b	① ①②
	心肺蘇生法	2	心肺蘇生法の意義と方法について理解し、実際に心肺蘇生法をおこなうことができるようにする。	c	①②

計35時間（50分授業）

7 課題・提出物等

・適宜レポートやワークシートを記入し、提出することとなります。

8 担当者からの一言

「保健」は健康な生活や人生を送るうえで、各ライフステージで直面する課題や環境問題などを発見し、どのように解決していくかを考える科目です。自己の健康だけでなく、家族や他者、社会など広い視点で健康・環境問題を捉え、解決する力を身に付けてほしいと思います。（担当：金澤）

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	大修館 『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館 『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身に付ける。

3 指導の重点

- ・各単元の健康課題についての理解を深める。
- ・生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりについて自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を行う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ①筆記テストの成績 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①学習活動への取り組みの観察 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①授業態度、学習活動への参加状況 ②ワークシート、提出物等の内容の確認 などから、総合的に評価します。
	内容のまとまり毎に各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまり毎の評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	時数	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
前期	ライフステージと健康	2	ライフステージと死亡や病気、健康課題とその支援について理解する。	a b c	① ①② ①②
	思春期と健康	2	思春期における心身の健康と健康課題について理解する。		
	性意識と性行動の選択	2	性意識とその尊重、性に関する情報と性行動について理解する。		
	妊娠・出産と健康	2	受精・妊娠・出産、母子保健サービスの活用について理解する。		
	避妊法と人工妊娠中絶	2	家族計画の意義と避妊法、人工妊娠中絶について理解する。		
	結婚生活と健康	2	結婚生活の基盤となる心身の発達、結婚生活と家族の健康について理解する。		
	中高年期と健康	1	加齢による変化と健康、高齢者の健康を支える取り組みについて理解する。		
	働くことと健康	2	働くことと健康のかかわり、働き方と健康問題の変化について理解する。		
	労働災害と健康	2	労働災害とその要因、労働災害の防止について理解する。		
	健康的な職業生活	1	職場における取り組み、仕事と生活の調和について理解する。		
後期	大気汚染と健康	1	大気汚染の原因と健康影響、大気にかかわる地球規模の問題について理解する。	a b c	① ①② ①②
	水質汚濁、土壌汚染と健康	1	水質汚濁や土壌汚染とその健康課題、大気汚染と水質汚濁と土壌汚染のかかわりについて理解する。		
	環境と健康にかかわる対策	1	環境汚染の防止とその対策、産業廃棄物の処理と健康について理解する。		
	ごみの処理と上下水道の整備	2	ごみの処理の現状、安全で良質な水の確保について理解する。		
	食品の安全性	2	食品の安全性と健康、食品の安全性に関する今日的課題について理解する。		
	食品衛生にかかわる活動	1	食品の安全性の確保、食品の安全と私たちの役割について理解する。		
	保健サービスとその活用	1	保健行政の役割、保健サービスの活用について理解する。		
	医療サービスとその活用	2	医療の供給と医療保険、医療機関と医療サービスの活用について理解する。		
	医薬品の制度とその活用	2	医薬品の種類と使用法、医薬品の副作用と安全性を守る取り組みについて理解する。		
	さまざまな保健活動や社会的対策	2	健康を支える保健活動と社会的対策、保健活動や社会的対策への住民の理解について理解する。		
	健康に関する環境づくりと社会参加	2	健康と環境づくり、環境づくりへの社会参加と情報の活用について理解する。		

計35時間(50分授業)

7 課題・提出物等

・適宜レポートやワークシートを記入し、提出することとなります。

8 担当者からの一言

「保健」は健康な生活や人生を送るうえで、各ライフステージで直面する課題や環境問題などを発見し、どのように解決していくかを考える科目です。自己の健康だけでなく、家族や他者、社会など広い視点で健康・環境問題を捉え、解決する力を身に付けてほしいと思います。(担当：金澤)

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2 単位	学年（コース）	1 学(必須選択)
使用教科書	MOUSA ムサ 1 （教育芸術社）				
副教材等	The Basics of Music 2 訂版 （教育芸術社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を活かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 - 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	- 授業の取り組み（授業態度、楽曲に対する姿勢、他者との協働性など） - 実技テスト（グループ・個人） - 単元確認テスト - 振り替えシートなど提出物	- 授業の取り組み（授業態度、楽曲に対する姿勢、他者との協働性など） - 実技テスト（グループ・個人） - 単元確認テスト - 振り替えシートなど提出物	- 授業の取り組み（授業態度、楽曲に対する姿勢、他者との協働性など） - 実技テスト（グループ・個人） - 単元確認テスト - 振り替えシートなど提出物
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と 領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4 5	歌おうⅠ	6 歌唱	「花」 「校歌」	・歌う姿勢、腹式呼吸を身に付け 歌う楽しさを感じさせる。	a b c	授業の取り組み 実技（独唱）
	楽典Ⅰ	4 楽典	楽典基礎 ＊iPad 活用	・音楽アプリを活用し、楽典基礎を 復習し楽曲上で応用を学ばせる。	a b c	単元確認テスト 振り返りシート
	創作Ⅰ	3 創作	音から図形へ ＊イメージしよう	・音からイメージした図形を1枚の絵に 描き曲を表現する。	a b c	課題提出 振り返りシート
6 7	合唱の楽しみ （文化祭発表）	14 合唱	「春愁」 「校歌」 （合唱版）	・合唱活動における協働的な学びを 育成する。 ・美しい響きのある発声を身に付け 豊かな表現で歌う。	a b c	授業の取り組み 実技（合唱） 単元確認テスト 振り返りシート
8 9 10	器楽Ⅰ	8 器楽	ギター独奏 ギター重奏 「第三の男」	・音楽アプリを活用し、ギター基礎奏法 を学ばせ、実技練習をさせる。 ・原語の発音の特徴を学ぶ。	a b c	授業の取り組み 実技（器楽） 振り返りシート
	歌曲を歌う	7 独唱	「Ich liebe dich」 ドイツ歌曲	・歌詞の内容を理解させ、楽曲にあった 豊かな発声法から曲想の表現を工夫さ せる。	a b c	授業の取り組み 実技（独唱） 単元確認テスト 振り返りシート
11 12	器楽Ⅱ	8 器楽	日本の楽器 箏・三味線・篠笛	・日本の楽器の基本的な奏法を学び 民謡や芸能を学習させる。	a b c	授業の取り組み 実技（器楽） 振り返りシート
	創作Ⅱ	5 創作	曲を創ろう	・コード構成を学び、コードの音を使い 曲を作ってみる。	a b c	授業の取り組み 振り返りシート
1 2 3	アンサンブル 発表	15 器楽 歌唱		・楽譜選曲、演奏形態等グループで 練習計画を立て発表に向け練習。 ・各自のパートの役割等、協働と調和を 学びながら表現を工夫させる。 ・他者の演奏を鑑賞し評価する	a b c a b c	授業の取り組み 実技（器楽） 振り返りシート 自己・他者への評価

計 70 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに確認テストを実施（授業の中で行う）
- ・ 課題提出をさせる。（プリント課題等）

8 担当者からの一言

音楽では基本的な技能・知識の向上を図るとともに、思考力・想像力を養う。

実技活動は、身体が覚えるまで学習に取り組む姿勢が望ましい。

担当：青木

教科（科目）	芸術(美術Ⅰ)	単位数	2単位	学年（コース）	1 学年（必須選択）
使用教科書	「高校美術」 日本文芸出版				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

美術の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさ美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や考え方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に捉えているか。 ・課題提出 ・学習活動への参加状況や取り組む姿勢・態度	創造的な表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫しているか。 ・作品表現、プレゼンテーションの内容 ・課題提出	美術の創造活動に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組んでいる。 ・課題提出 ・プレゼンテーション等の学習活動への参加状況や取り組む姿勢・態度 ・出席状況
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4	表現・鑑賞	6	教科書・映像 iPad	絵画や写真、現代アート作品の鑑賞と表現	a b c	授業態度 感想文 作品提出
5	表現・鑑賞・絵画	8	教科書・鉛筆 スケッチブック	静物デッサン、風景スケッチ 自画像	a b c	授業態度 作品提出
6	表現・鑑賞・デザイン	9	教科書・絵の具 スケッチブック	レタリング、平面構成、 ロゴデザイン、キャラクターデザイン	a b c	授業態度 作品提出
7 8 9	表現・鑑賞 絵画・デザイン	13	教科書 スケッチブック iPad	イラストレーション、プレゼンテーション コミュニケーションデザイン、絵画表現 写真表現、風景画	a b c	授業態度 作品提出 プレゼンテーション
10 11	表現・鑑賞・絵画 映像・メディア表現	13	教科書 スケッチブック iPad	絵画表現 アニメーション、 アート鑑賞	a b c	授業態度 作品提出
12 1	鑑賞・表現・デザイン	13	教科書 スケッチブック iPad	デザイン鑑賞 ポスターデザイン制作	a b c	授業態度 作品提出
2 3	表現・鑑賞 絵画・デザイン	8	教科書 スケッチブック iPad	写真、絵画制作	a b c	授業態度 作品提出

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

デッサン、デザイン、絵画などの課題を単元ごとに提出する。デジタル作品は、iPadにて提出する。

8 担当者からの一言

アートで世界を考え、幅広い視点で生徒と共に感じ考え表現し、想像力を育むことで生活や社会の中の美術や芸術文化を幅広く関わる資質・能力を育成する。

担当：吉田

教科（科目）	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学年（コース）	1学年（必須選択）
使用教科書	書道Ⅰ（教育出版）				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- （1）書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- （2）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- （3）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深める。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	・基本的な用筆法を習得し、目的や用途に即して、創意工夫した表現ができるか。 ・作品を客観的に観察し、その特質をとらえ、幅広く理解や見方を深めることができるか。	・古典の特徴を捉え、表現活動にいかしているか。 ・表現を工夫して効果的な表現をしようとしているか。	・授業態度、作品、課題の内容や提出状況
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	・書の教科性について ・文房四宝について	4	教科書 資料	・書の教科性、文房四宝の内容を 理解する。	a b c	授業態度 課題提
5	・漢字仮名交じりの書	6	教科書、資料 書道道具一式	・漢字仮名交じりの書の学習内容を 理解する。	a b c	授業態度 課題提
6	・漢字の書（楷書）	8	教科書、資料 書道道具一式	・漢字の書の学習内容を理解する。	a b c	授業態度 課題提出
7	・篆刻、刻字	8	教科書、資料 書道道具一式	・篆刻に関わる学習内容を理解する。	a b c	授業態度 課題提出
8 9	・書道史（中国・日本） ・仮名の書	8	教科書、資料 書道道具一式	・中国書道史、日本書道史の背景を理解する。 ・仮名の書の学習内容を理解する。	a b c	授業態度 課題提出
10	・漢字の書（行書）	8	教科書、資料 書道道具一式	・書体の変遷について理解する。	a b c	授業態度 課題提出
11	・漢字の書（隷書）	6	教科書、資料 書道道具一式	・隷書の表現方法について理解する。	a b c	授業態度 課題提出
12	・創作（漢字、漢仮）	6	資料、書道道具一式	・表現と鑑賞について理解する。	a b c	授業態度 課題提出
1	・実用の書	6	資料、書道道具一式	・表現様式を理解する。	a b c	授業態度 課題提出
2	・鑑賞 （漢字、仮名、漢仮）	6	資料	・名品を鑑賞し書の伝統と文化を 理解する。	a b c	授業態度 課題提出
3	・書論（中国・日本）	4	資料	・書論を学び、書の理論を理解する。	a b c	授業態度 課題提出

計 70 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

課題、提出物は授業の中で実施します。

8 担当者からの一言

学習目標を明確にし、「学ぶ楽しさと理解する喜び」を知ってください。

（担当：高野悦子）

教科(科目)	外国語(英語コミュニケーションⅠ)	単位数	3単位	学年(コース)	1年次(必修)
使用教科書	『COMET ENGLISH COMMUNICATION Ⅰ』(数研出版)				
副教材等	『COMET ENGLISH COMMUNICATION Ⅰ ベーシックノート』(数研出版), 『改訂版 COMET 英単語』(数研出版), 『改訂版 COMET 英単語学習ノート①』(数研出版), 『改訂版 COMET 英単語学習ノート②』(数研出版), 『2023-2024 Watching Joyful』(浜島書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ上げ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

3 指導の重点

- ・語彙力や基本的な文法力の確実な習得を目指します。
- ・身近な話題についての英文を読解する力の確立を目指します。
- ・基本的なコミュニケーション能力の習得を目指します。
- ・言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解しようとする態度の育成を目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

5 評価方法

評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。また以下に示す評価方法で、英語の4技能5領域（a 聞くこと b 読むこと c 話すこと（やりとり） d 話すこと（発表） e 書くこと）の育成を図ります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ①単語テスト（COMET 英単語） ②実力テスト（Watching Joyful） ③定期考査	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ④音読テスト（教科書） ⑤スピーキングのパフォーマンステスト ⑥ライティングのパフォーマンステスト 定期考査等の1部として思考・判断・表現に関する出題をすることもあります。	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ⑦各種提出物の提出状況 ⑧授業への取り組み パフォーマンステストや定期考査等の1部として主体的に学習に取り組む態度に関する出題をすることもあります。

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間・領域	評価の観点
4	Lesson 1	過去形	・海外からの旅行者が日本での経験を旅行サイトの掲示板に投稿する	10・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
5	Lesson 2	進行形	・ダイキがクラスメートに自分が熱中しているダンスについて話す	10・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
6	Lesson 3	助動詞	・日本のおにぎりの海外での人気について、ハルカが学校新聞に記事を書く	10・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
7	Lesson 4	不定詞（名詞用法・形容詞用法・副詞用法[目的]）	・東京五輪をきっかけに世界でも一般的になったピクトグラムについて、リョウタがスピーチをする	10・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
8 ・ 9	Lesson 5	動名詞（主語・補語・目的語として）	・病院で子どもたちを癒すファシリティドッグの日本発のハンドラー、森田さんへのインタビュー	10・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
10	Lesson 6	that-節	・コンビニが商品売るための工夫について、ハルカが研究発表を行う	11・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
11	Lesson 7	現在完了（継続・経験・完了）	・高校で水族館を運営する水族館の生徒へのインタビュー	11・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
12	Lesson 8	受け身	スマート農業に関するウェブサイトの記事	11・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
1 ・ 2	Lesson 9	比較	・食品廃棄の問題について、ダイキが学校新聞に記事を書く	11・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
3	Lesson 10	関係代名詞(who / which / that)	・電気もない貧しいアフリカの農村で、独学で発電のための風車を作ったウィリアム・カムクワンバの実話	11・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・週に1回単語テストがあります。テスト範囲・それに伴う提出物の範囲は別紙範囲表を参照してください。
- ・各レッスン終了時に音読テストがあります。そのレッスン本文が出題範囲となります。
- ・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

高校に入学して、新たな英語学習のスタートを切ることになります。苦手意識がある人も学び直しができるので安心して学習に取り組んでください。課題提出の締め切りは守りましょう。分からないことがあったらそのままにしないで、担当の先生に遠慮せずに質問してください。各種検定や外部試験などにも積極的に取り組んでみるといいと思います。

教科(科目)	外国語(英語コミュニケーションⅡ)	単位数	4単位	学年(コース)	2学年(必修)
使用教科書	『COMET English Communication Ⅱ』(数研出版)				
副教材等	『COMET English Communication Ⅱ ベーシックノート』(数研出版), 『COMET 基本文法定着ドリル 1』(数研出版), 『2023-2024 Watching Light』(浜島書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ上げ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報、話の展開、話し手の意図・概要・要点を目的に応じて聞き取ったり、読み取ったりして把握することができるようにする。また、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うやり取りや発表をすることができるようにする。

3 指導の重点

- ・語彙力や文法力の確実な習得を目指します。
- ・日常的な話題や社会的な話題についての英文を読解する力を確立させることを目指します。
- ・目的や場面、状況などに応じたコミュニケーション能力の習得を目指します。
- ・言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を主体的、自律的に理解しようとする態度の育成を目指します。

4 評価の観点の趣旨

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
外国語の4技能について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて使える知識・技能を身に付けている。英語の特徴やきまりなどを理解している。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で論理性に注意して話したり詳しく伝えたりしている。	聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮し、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを主体的、自律的に英語を用いて表現しようとしている。

5 評価方法

評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。また以下に示す評価方法で、英語の4技能5領域（a 聞くこと b 読むこと c 話すこと（やりとり） d 話すこと（発表） e 書くこと）の育成を図ります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ①文法テスト (Starting Over English) ②単語テスト (教科書) ③実力テスト (Watching Joyful) ④定期考査	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ⑤音読テスト (教科書) ⑥スピーキングのパフォーマンステスト ⑦ライティングのパフォーマンステスト 定期考査等の1部として思考・判断・表現に関する出題をすることもあります。	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ⑧各種提出物の提出状況 ⑨授業への取り組み パフォーマンステストや定期考査等の1部として主体的に学習に取り組む態度に関する出題をすることもあります。

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間・領域	評価の観点
4	Lesson 1	want (ask / tell) + 0 + to 不定詞	日本とトルコの高校生が、それぞれが訪れた屋久島とカップドキアを紹介し合う英文のメールを読み、内容を把握する。自分が行ってみたい場所について、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	12 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨
5	Lesson 2	疑問詞 + to 不定詞	動物写真家・岩合光昭さんが、野生動物の撮影について語った文章を読み、内容を理解する。好きな写真について、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	16 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨
	Lesson 3	分詞の形容詞的用法	ニュージーランドからの留学生が、先住民マオリ族の伝統舞踊を紹介する文章を読み、内容を理解する。興味のある世界の文化について、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。		
6	Lesson 4	S + V + if 節/間接疑問文	デジタル機器が心身に与える悪影響についての文章を読み、内容を理解する。デジタル機器との関わり方についての意見を、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	16 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨
7	Lesson 5	seem to 不定詞/ It seems that 節	効果的な目標設定のし方についての文章を読み、内容を理解する。自分の目標について、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	12 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨
8	Lesson 6	助動詞+ have 過去分詞	美容師を目指し、「ビューティー・クリエイト部」で活動を行う三重県の高校生についての文章を読み、内容を理解する。自分の就きたい職業について、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	16 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨
9					
10	Lesson 7	過去完了形	バリ島でのレジ袋撤廃運動についての文章を読み、内容を理解する。環境のためにできることは何かについての意見を、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	16 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨
11	Lesson 8	関係代名詞 what	「ナッジ理論（少しの工夫で人によりよい行動を取ってもらうよう促す）」についての文章を読み、内容を理解する。身の回りの問題の解決策や工夫について、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	16 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨
12	Lesson 9	関係副詞 where / when	点字ブロックの開発者である三宅精一氏を紹介する文章を読み、開発の経緯について内容を理解する。誰もが暮らしやすい社会について、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	12 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨

1	Lesson 10	使役動詞 (make / let / have) + 0 + 原形動詞	日本での「きめ細やかなサービス」に関する、海外からの留学生の意見についての文章を読み、内容を理解する。必要、または不要だと思うサービスについて、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	12 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨
2 3	Lesson 11	知覚動詞 + 0 + 原形動詞／現在分詞	太平洋戦争以前、カナダで活躍した日系人野球チームについての文章を読み、内容を理解する。人権を守るために活動した人物について、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。	12 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨
	Lesson 12	仮定法	一般にはあまり知られていないが、世界に通じる製品を作っている日本の2つの企業を紹介する文章を読み、内容を理解する。日本で開発、改良された優れた製品について、情報や考えを整理して伝え合ったり、書いたりすることができるようにする。		
					計140時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・基本的に毎週文法テストがあります。テスト範囲・それに伴う提出物の範囲は別紙範囲表を参照してください。
- ・各パートの学習開始前に単語調べの予習があります。範囲は授業担当よりお知らせします。
- ・各レッスン終了時に単語テスト・音読テストがあります。そのレッスン自体が出題範囲です。
- ・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

高校の英語学習にも慣れてきた頃かと思います。苦手意識がある人も学び直しができるので安心して学習に取り組んでください。課題提出の締め切りは守りましょう。分からないことがあったらそのままにせず、担当の先生に遠慮せずに質問してください。各種検定や外部試験などにも積極的に取り組んでみましょう。

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学年(系列)	1 学年
教科書	実教出版 『図説 家庭基礎』				
副教材	実教出版 『図説 家庭基礎』 学習ノート				
履修条件	特になし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。
--

3 指導の重点

- 生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。 - 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 - 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	・テストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから評価します。	・テストの分析 ・授業中の発言、発表や実習への取り組みの観察などから評価します。	・授業中の発言、発表や実習への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名	授業 時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
前期	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	1	ワークシート	ホームプロジェクトと学校家庭クラブについて、家庭科の学び方 生活に生かそう・自分の意見を文章にまとめよう	・授業態度 ・ワークシート ・実習作品 ・定期考査 ・レポート
	1 生涯を見通す	2	ワークシート	1①人生を展望する ②目標を持って生きる	
	2 人生をつくる	5	DVD	2①人生をつくる ②家族・家庭を見つめる ③これからの家庭生活と社会	
	3 子どもと共に育つ	9	保育人形 ワークシート DVD	3①いのちを育む ②子どもの育つ力を知る ③子どもと関わる ④子どもの触れ合いから学ぶ ⑤これからの保育環境	
	4 高齢社会を共に生きる	5	ワークシート DVD	4①超高齢・大衆長寿社会の到来 ②高齢者の心身の特徴 ③これからの超高齢社会	
	5 共に生き、共に支える	3	ワークシート	5①私たちの生活と福祉 ②社会保障の考え方 ③共に生きる	
	6 食生活をつくる	8	ワークシート DVD 食品模型	6①食生活の課題について考える ②食事と栄養・食品 ③食生活の選択と安全	
	定期考査	2			

後 期	6 食生活をつくる	8	ワークシート DVD	6④生涯の健康を見通した食事計画 ⑤調理の基礎 ⑥食生活の文化と知恵 ⑦これからの食生活	・授業態度 ・実習の取り組み ・実習作品 ・ワークシート ・定期考査
	7 衣生活をつくる	10	ワークシート DVD	7①被服の役割を考える ②被服を入手する ③被服を管理する ④衣生活の文化と知恵 ⑤これからの衣生活	
	8 住生活をつくる	6	ワークシート DVD	8①住生活の変遷と住居の機能 ②安全で快適な住生活の計画 ③住生活の文化と知恵 ④これからの住生活	
	9 経済生活を営む	8	ワークシート DVD	9①情報の収集・比較と意思決定 ②購入・支払いのルールと方法 ③消費者の権利と責任	
	10持続可能な生活を営む	1	ワークシート	④生涯の経済生活を見通す ⑤これからの経済生活	
	定期考査	2		10 持続可能な社会を目指して	

※学習活動の順番は入れ替わることがあります。

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・ワークシートの提出や課題の提出があります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

毎日の生活とこれからの人生をより豊かにするための知識、技術の習得を目指します。安全・衛生に留意し、自立した生活ができるように生活力を身につけていきましょう。

教科（科目）	情報（情報Ⅰ）	単位数	2単位	学年（系列）	1年次（必修）
教科書	最新情報Ⅰ（実教出版株式会社）				
副教材等	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級（実教出版株式会社） 全商情報処理検定模擬試験問題集3級（実教出版株式会社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
--

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ①コンピュータの基本的操作方法を理解することを目指す。 ②コンピュータを効果的に活用して自身の考えを整理し、他者に理解してもらう表現力を養います。 ③情報技術を適切に活用できるようにモラルを意識しながら、情報社会に参画する態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	主体的に学習に取り組む態度 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

5 評価方法

	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト、検定試験の分析 ・観察、実習、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト、検定試験の分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト、検定試験の分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
前期	オリエンテーション	1 h	教科書 ブラウザ プレゼンソフト ワープロソフト	・中学校までの学習、経験等既習内容の調査を行う。 ・コンピュータの起動や終了の方法、OSの基本操作について練習する。 ・ファイルの保存、読み込み、共有フォルダの利用方法について理解する。 ・コンピュータ教室の使い方を理解する。	a	ペーパーテストの分析 提出物の分析
	第1章情報社会と私たち 1 情報社会	3 h ・情報社会と現状 ・情報の特性 ・情報のモラルと個人に及ぼす影響	教科書 ブラウザ プレゼンソフト ワープロソフト	・情報社会の現状について理解する。 ・情報の特性について理解する。 ・情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。	a b c	提出物の分析 発表等の分析
	第1章情報社会と私たち 2 情報社会の法規と権利	3 h ・知的財産 ・情報の利用と公開 ・個人情報の保護と管理	教科書 ブラウザ プレゼンソフト ワープロソフト	・知的財産権について理解する。・他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ・個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表等の分析
	第1章情報社会と私たち 3 情報技術が築く新しい社会	1 h ・社会の中の情報システム ・情報技術と課題解決	教科書 ブラウザ プレゼンソフト ワープロソフト	・社会の中で利活用されている情報技術について理解する。 ・様々な情報技術について理解し、課題解決の方法をについて考える。	a c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表等の分析
	第2章メディアと情報デザイン 1 メディアとコミュニケーション	4 h ・メディアの発達 ・メディアの特性 ・コミュニケーションの形態 ・インターネットのコミュニケーション	教科書 ブラウザ プレゼンソフト ワープロソフト メーラ	・メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る。 ・メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 ・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 ・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表等の分析 定期テスト

第2章メディアと情報デザイン 2 情報デザイン	2 h ・社会の中の情報デザイン ・情報デザインの工夫	教科書 ブラウザ プレゼンソフトウェア ワープロソフト ペイント系ソフト	・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 ・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。	a b c	提出物の分析 発表等の分析
第2章メディアと情報デザイン 3 情報デザインの実践	8 h ・文書の作成・プレゼンテーション ・Web ページ	教科書 ブラウザ プレゼンソフトウェア ワープロソフト テキストエディタ	・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。 ・プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 ・Web ページ作成の方法について理解する。	a b c	提出物の分析 発表の分析
第3章システムとデジタル化 1 情報システムの構成	2 h ・コンピュータの構成と動作 ・ソフトウェアとインターフェース	教科書	・コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ・ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
第3章システムとデジタル化 2 情報のデジタル化	8 h ・アナログとデジタル ・2進数と情報量 ・演算の仕組み ・数値と文字の表現 ・数値の計算 ・音声の表現 ・静止画と動画の表現 ・情報のデータ量	教科書 ・音声処理ソフト ・ペイント系ソフト ・ドロー系ソフト ・動画編集ソフト ・圧縮解凍ソフト	・アナログとデジタルの違いについて理解する。 ・2進数と情報量の関係について理解する。 ・コンピュータの演算の仕組みを理解する。 ・数値や文字をデジタル化する方法を理解する。 ・コンピュータでの数値の計算方法について理解する。 ・音声をデジタルで表現する方法について理解する。 ・静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。 ・情報のデータ量を小さくする方法について理解する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
第4章ネットワークとセキュリティ 1 情報通信ネットワーク	3 h 1 ネットワークの構成 2 情報通信の取り決め 3 Web ページとメールの仕組み 4 転送速度とデータ圧縮	・教科書 ・ブラウザ ・メールソフト ・圧縮解凍ソフト	・情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・Web ページとメールの仕組みについて理解する。 ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。	a b c	提出物の分析 発表の分析 定期テスト
第4章ネットワークとセキュリティ 2 情報セキュリティ	4 h 脅威に対する様々な安全対策について理解する。 ・情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。 ・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。	・教科書 ・ブラウザ	・脅威に対する様々な安全対策について理解する。 ・情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。 ・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。	a b c	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
第5章問題解決とその方法 1 問題解決	5 h 1 問題解決 2 問題の発見 3 問題の明確化 4 解決案の検討 5 解決案の	・教科書 ・ブラウザ ・デジタルホワイトボード ・ワープロソフト ・表計算ソフト	・問題解決の手順について理解する。 ・問題の発見の方法について理解する。 ・問題を明確化する方法について理解する。 ・解決案を検討したり、整理・分析したりする方法について理解する。 ・合意形成を目指した解決案を決定す	a b c	提出物の分析 発表の分析

		決定 6 解決案の 実施と評価		る方法について理解する。 ・実行した解決案を評価する方法について理解する。		
	第5章問題解決 とその方法 2 データの活用	7 h 1 データの 収集と整理 2 データ分 析と表計算 3 データの 可視化 4 データ分 析の手法 5 データベ ースとは	・教科書 ・ブラウザ ・データベース ソフト ・表計算ソフト	・データを収集したり、整理したりする 方法について理解する。 ・表計算ソフトの活用方法について理 解する。 ・データを適切なグラフや図に表現す る方法を理解する。 ・データ分析の手法について理解する。 ・データベースの種類とその仕組みに ついて理解する。	a b c	ペーパーテス トの分析 提出物の分析 発表の分析
	第5章問題解決 とその方法 3 モデル化	5 h 1 モデル化 とシミュレー ション 2 モデルの 分類 3 モデル化 の手順 4 モデル化 の手法 5 モデル化 をする時の注 意	・ワープロソフト	・モデル化の意味について理解する。 ・モデル化の分類について理解する。 ・モデル化する手順と方法を理解し、 様々なモデルを作成する。	a b c	提出物の分析 発表の分析
後	第5章問題解決 とその方法 4 シミュレー ション	4 h 1 シミュレ ーションの実 際 2 モンテカ ルロ法 3 モデル化 とシミュレ ーションによる 問題解決	表計算ソフト	・シミュレーションの意義について理 解し、確率的モデルのシミュレーショ ンを行う。 ・問題解決のためにシミュレーション を活用する。	a b c	ペーパーテス トの分析 提出物の分析 発表の分析
期	第6章アルゴリ ズムとプログラ ミング 1 プログラミ ングの方法	3 h 1 アルゴリ ズムとその表 記 2 プログラ ミング言語	・教科書 ・表計算ソフト ・ブラウザ	・アルゴリズムを用いてプログラムを 表現する方法を理解する。 ・プログラミング言語の種類とその特 徴について理解する。	a b c	ペーパーテス トの分析 提出物の分析 発表の分析
	第6章アルゴリ ズムとプログラ ミング 2 プログラミ ングの実践	7 h 1 プログラ ミングの方法 2 関数を使 用したプログ ラム 3 探索と整 列のプログラ ム	・教科書 ・表計算ソフト ・ブラウザ	・変数を使用したプログラムを作成す る。 ・関数を使用したプログラムを作成す る。 ・多くのデータから目的のデータを探 し出すプログラムを作成する。	a b c	提出物の分析 定期テスト

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・コンピュータの実習では課題やレポートの提出があります。
- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(副教材等)

8 担当者からの一言

情報社会の中で働く意義を理解し、それに向けて取り組む真面目な姿勢を身につける努力をしましょ
う。

教科(科目)	総合(産業社会と人間)	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	学事出版『産業社会と人間 よりよき高校生活のために』四訂版				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育成します～ ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

- 地域との関わりをとおして自己の生き方を探究し、将来の職業選択に必要な能力・態度を次のように養うことを目指す。
- (1) 地域の産業を知るために、自己啓発的な調べ学習・体験学習に取り組むようにする。
 - (2) 将来の職業生活を具体的に描き、そのために必要な選択決定を自らの意思で表現できるようにする。
 - (3) 社会人との関わりから、自己の充実や生きがいを目指す態度を身につけるようにする。

3 指導の重点

社会生活や職業生活に必要な能力や態度、望ましい勤労観、職業観を育成する。

- (1) 我が国や新潟県の産業の発展とそれがもたらした社会の変化について考察する。
- (2) 自己の将来の生き方や進路についての考察及び系列や教科・科目の選択が主体的に進められるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 地域の産業を理解し、地域企業やそこでの業務について理解しようとしている。 - 職業人へのインタビューをとおして、コミュニケーション能力の向上を図ろうとしている。	- 他者の考えや生き方を享受し、自己の生き方に反映させることで、自己の充実を目指した思考を持とうとしている。 - 自己の選択決定や職業観、勤労観を、必要な道具を用いて表現しようとしている。	授業や企業見学・進路ガイダンスなどに積極的に参加し、得た情報を反映させたよりよい将来設計に、主体的な態度で取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ① 振り返りシートの記述の分析 ② 集団活動、課外活動における実践の様子を観察 ③ 振り返りシートの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ① 振り返りシートの分析 ② グループワークでの取り組み、意見文の観察・確認 ③ 発表内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ① 授業中の取組の観察 ② 振り返りシートや提出物などの内容の確認 ③ 振り返りシートの分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点・方法
前期	進路に対する意識を高めよう。	・「意識啓発講演会」をとおして充実した高校生活の意義と、進路選択の重要性を学ぶ。 ・各系列の特徴をシートにまとめ、理解する。 ・適性検査などから自らを理解し、自己の職業観や希望する将来像から系列を選択する。	14	a ①③ b ①② c ①②③
	地域社会と産業を知ろう。	・「地域の産業を知る」講演会をとおして地域への理解を深める。 ・主体的な調べ学習をとおして地元企業とその業種を知る。 ・得られた情報を振り返りシートにまとめ、自己の系列選択や活動に反映させる。	10	a ①②③ b ①② c ①②③
	人との関わりと、自らの将来選択を考えよう。	・人へのインタビューの仕方を学び、社会人との関わり方を学ぶ。 ・傾聴する態度を学び、会話から相手の背景に関心を持つ姿勢を育てる。 ・得られた情報をまとめ、自らの職業観・勤労観にどのように反映できるか考える。	10	a ①②③ b ①② c ①②③
後期	自己の充実と社会への寄与を目指した行動と学習をしよう。	・「系列の授業から進路を考える」授業で各系列の学習と同等な学習に取り組む。 ・進路ガイダンスに参加し、より自身に合った進路について考察する。	16	a ①②③ b ①② c ①②③
	理想的な自己実現に対して、今できることを考え、表現しよう。	・社会人との関わりから得られたヒントをもとに、自己の在り方生き方をまとめる。 ・まとめた資料をもとに、自己の将来像を発表する。 ・他者の発表を聞き、さらに自己の生き方考え方を見つめる。	20	a ①②③ b ①②③ c ①②③

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 各授業で振り返りシートを記述し提出します。
- ・ 自身で地域の企業を調べインタビュー先を決定します。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「産業社会と人間」では他者との関わりをとおして、自己の在り方生き方を考えていきます。この授業では、皆さんが充実した将来を描き、積極的に社会に寄与し、生きがいとともに「生きる力」を見つけるヒントがあふれていることと思います。ぜひ積極的・主体的な態度で授業に臨み、自らの考えや視野を広げてほしいと思います。